

令和5年度石狩管内学校における働き方改革推進会議 及び働き方改革推進事業中間報告会

日時：令和5年12月18日（月）15:00～15:50

方式：対面及びオンラインでの同時開催

出席者：管内市町村教育委員会教育長、

管内小中学校長会会長、

管内小中学教頭会会長、

北海道高等学校長協会石狩支部副支部長、

北海道高等学校教頭・副校長会石狩支部長、

北海道特別支援学校長会石狩副支部長、

北海道特別支援学校副校長・教頭会石狩支部長、

北海道野幌高等学校長、北海道当別高等学校長、

教職員局教職員課働き方改革係主査、

渡島教育局主幹、石狩教育局局長、次長、義務教育指導監

【目的】

教職員の時間外勤務等の縮減及び学校の業務改善を図るための対策や取組状況の検証及び取組の改善等について協議し、働き方改革の推進に資する。

また、推進校におけるこれまでの取組や明らかになった課題と成果に係る発表の場を設け、取組の進捗状況を関係者間で確認し、必要な助言等を行うとともに、推進校等以外の学校や地域への啓発と成果の普及につなげる。

1 挨拶

局長 田中 賢一

- 「勤務時間を意識した働き方」を進めること、子どもの資質・能力の定着を図るための質の高い教育を行うための「業務改善」を同時に進めることができているか、ということについて、各学校からの事例に基づき、個業を許しておくのではなく、学校が組織的に取り組めるよう協議を深めたい。

2 説明

義務教育指導監 安榮 智裕

- 管内の小中学校での働き方改革の取組みについての情報提供

3 発表

働き方改革推進事業推進校

北海道野幌高等学校長 壽淺 章洋

- 野幌高校アクション・プランについて
アンケート結果・ストレスチェック調査からの分析
- 今後の課題等について
 - ・3年計画における定期考査の見直し及びそれに伴うデジタル化学習支援コンテンツの導入の検討
 - ・次の4点について今後推進していく
 - ①新たな探究学習プログラムの作成
 - ②校内研修等による議論する機会の創出
 - ③探求を意識した教科横断的な授業改革
 - ④充実した生徒支援のためのさらなる組織体制の見直し

北海道当別高等学校長 保格 秀規

- 1年目の本校の取組について
 - ①会議資料のデジタル化、アンケートによる中間反省、分掌再編
 - ②校長通信の作成、グーグルスプレッドシートの活用
 - ③北海道クラスプロジェクトにおける町商工会等との取組
- 今後の課題等について
 - 3つの方向性
 - ①職員の働く意識改革、②仕事の内容の精選、③業務の平準化、分掌の再編

4 意見交換

石狩管内小中学校長会会長 佐藤 直己

- ・担任と副担任の在校等時間の差は大きい。コアチームを中心に担任の業務をカバーできるように動いている。
- ・部活動顧問・副顧問の在校等時間についても同様の状況であるため、部活動ガイドライン等の遵守について改めて確認するべきである。

石狩管内小中学校教頭会会長 高橋 潤一

- ・教頭職の働き方改革推進に向け、アンケートを活用しながら課題と実情を明確にし、効果的な取組み等を交流してきた。
- ・今後も教頭としての資質向上を考えつつ、働き方改革の推進に取組んでいく。

5 まとめ

渡島教育局主幹 松田 賢治

- ・野幌高校では教職員のアンケートにより課題が「見える化」し、ボトムアップで業務の改善が進んでいる。
- ・当別高校では、初年度から様々な取組が進んでおり、地域との連携がとて強化されている。
- ・2校とも共通している点が2つあり、1つは教職員がストレスを感じないよう、働きやすく、働きがいのある職場をつくっていくということで進めていること。2つ目は、コアチームを中心としながら、業務改善、教職員のアンケート等を基にししながら、教職員の意識改革が図られて、もっと働き方改革を自分ごととして教職員がとらえるということができている。
- ・「早く帰りたい」ではなく「いい仕事をしよう」という発想を持つことが大事
- ・働き方改革により生み出された時間を活用し、教育の質の向上について学び続ける教師になってほしい。

